

羽立工業株式会社

【事業概要】スポーツ用品、レクリエーション用品の製造販売、各種プラスチック成形、研究開発業務

市場トップシェアを目指して 競争力のある商品価値の高いスポーツ用ボールづくり

HISTORY



右から中村哲也社長と佐々木周作企画開発課課長

“健康”をキーワードに スポーツ用品から認知症予防商品まで

羽立工業はグラウンドゴルフをはじめ、フィットネスやノルディックウォーク用品など、健康スポーツ用品の企画、開発、製造を手がけるスポーツ用品メーカーだ。創業より培ったプラスチック成形技術を強みに、スポーツ用品のほかにも、自動車部品や玩具製造も手掛け、事業の幅は多岐に渡る。とくにグラウンドゴルフ用品の製造・販売においては、市場シェア2位を誇る。

ゲートボールやグラウンドゴルフなど、これまで高齢者のスポーツ用品の開発・製造に力を注いできた同社だが、中村哲也社長の「健康をキーワードに事業を再構築しよう」という考えから、ウェルネス事業部を新設。机の上で遊べるレクリエーションや認知症予防商品の開発・販売もスタートさせた。「総人口は減っているが高齢者は増え、私たちのマーケットは広がっている。競合がいないニッチな市場が強み」と中村社長は健康産業の今後の可能性について語った。

TURNING POINT



“健康”をテーマにさまざまなモノやサービスを企画・開発

技術課題をクリアし 商品力のある新製品の開発に挑戦

同社が得意とするグラウンドゴルフ用のボールだが、長年培った高度なプラスチック成形技術をもってしても、厚肉球体形状ゆえの製造課題は多かったようだ。

例えば、インサート成形ではインサートしたコア球の位置ずれによって発生する品質のばらつき、多層成形では層間の密着強度不足による耐久性への懸念などが挙げられるという。

市場トップシェアを目指すには、こうした課題をクリアしなければならない。加えて、大手スポーツメーカーに負けない商品力のある新製品の開発も不可欠だ。

「ボールを多層にして性能を上げたいが、多層にすればより高度な成形技術が必要とされる。生産性も上げたい」と試行錯誤。中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(ものづくり補助金)が後押しとなり、新たな生産設備や体制を構築することを決意。ハイブリッド縦型成形機と付帯設備の導入に踏み切った。

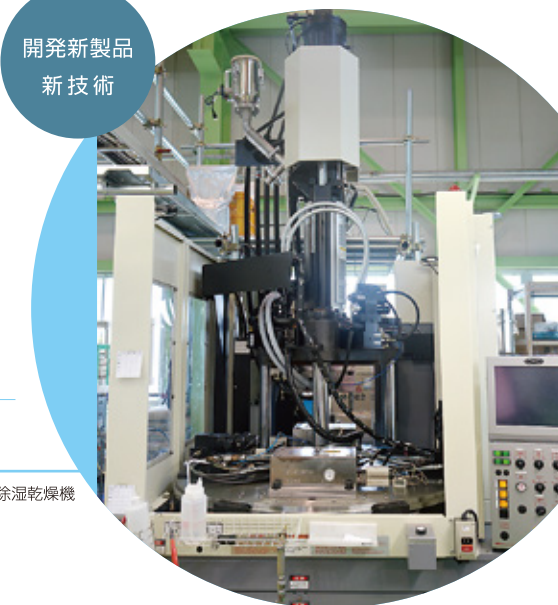


□本社所在地／湖西市新所3
□設立／昭和25年4月
□資本金／10,000,000円
□従業員数／56人

<http://www.hatachi.jp>

ハイブリッド縦型成形機と除湿乾燥機

開発新製品
新技術



INNOVATION



ものづくりの現場を技術で支えるスタッフ

生産数アップと品質向上を実現 成功体験を自信に次なる一歩も

重要課題となっていた厚肉球体形状を要因とする長い成形時間と、少ない生産個数を、新しい成形機とインサート成形品の組み合わせによって改善した。加えて、樹脂の組み合わせも見直し、層間の密着強度を上げ、製品の品質向上を実現。従来よりも耐久性に優れたボールを低コストで安定的に提供できるようになった。

また、厚肉球体形状多層インサート成形の技術を活用し、新しいボールの開発にも成功。成形試作を重ね、量産できる準備も整った。一方で、不良率や生産効率はまだ不安定。課題は残ると中村社長は厳しい表情を見せる。

担当の佐々木周作企画開発課課長は「新型成形機導入により、見えなかった課題が浮き彫りになり、詰めの甘さや視野の狭さを反省するきっかけにもなった」と振り返る。

これを機に、生産効率を上げるために工場レイアウトを変更。グラウンドゴルフ用ボールの年間生産量が10万球から15万球にアップした。こうした成功体験が自信となり、さらなる設備投資も考えているという。

CHALLENGE



成果品のグラウンドゴルフ用ボール
外観品質を向上させ、芯まで透明樹脂を使用することに成功

本事業で得た技術を応用し 幅広い技術展開を図りたい

創業以来、さまざまな開発を手掛けてきた同社。補助金の利用は今回が初めてではないようだ。「情報をキャッチできるように、常にアンテナを高く張っている。開発したいテーマはまだたくさんある」と中村社長は話す。

今後は、本事業で得た技術や生産能力を生かし「新しいボールを開発したい。5年後にはグラウンドゴルフ用品の製造・販売業界トップシェアの座をねらいたい」と気概を見せる。

さらに、本技術を応用することで、グラウンドゴルフ用クラブの意匠性の高いヘッド部の製造が可能になるほか、ゴルフボールや化粧品容器など、幅広い技術展開も視野に入れている。

「技術力が上がったことで、大手メーカーからこんなものがつくれないかと声が掛かるようになった」と思わぬ効果もあったようだ。